

校を全部休校せしめねば忽ち學費に空朽しては糊口の途を講せしめねばならぬ

旨の印刷物を配布したため町及び四学校當局は大恐慌を來してそのうち會社側山崎庶務主任が十四日大阪より歸來したが本社重役の意志も却々強硬で同日約三千名の職工を大阪より因島に送り三庄工場に就業せしめ急を要する修繕船シヤバ丸の修理に當つてをる。

六月十七日 大阪毎日新聞記事

「子弟の罷出休」を宣した因島の争議非形勢を再び

悪化 因島小學校は自然休校に陥るから

因島労働争議は其後工場並に四職業職工側双方とも事件勃発以來長月日に互るので疲勞の色見え一時小床を得ておるが皆詰り再び形勢悪化して來たので廣島東西兩警察署から二十餘名の應援警官を派遣して自前五百数十

名の警官隊を以て日夜これが警言戒に任じておるが十六日朝に至り内容証明郵便で因島争議団から岩本廣島縣學務課長宛て「争議団体の子弟は本日より一切登校せしめず」との通牒を寄せたので縣當局は大恐慌を來しこれが善后策につき目下鳩首凝議中であるが縣當局の争議處分方針は慎重考慮して決するらしく當分はそのまゝ放任し置く模様である因に因島に於ける小學校児童總數二千五百名下内争議団体の子弟が大半数を占めておる關係上小學校は自然休校のやむなきに至つておる

縣當局の態度

別項通り因島労働争議が悪化の兆候あるに就て廣島縣當局の意向を叩け付

池田内務部長談

縣當局として輕卒に革に臨むば縣當局對争議団の問題を惹起する事となり益々悪化せしむる恐があるから即當局的の意見も賣した上で慎重審議の上適切な方法を講じたいと思ふ。